

10. ズッキーニ

・殺菌剤

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	Zボルドー	散布	-	-	
31	スターナ水和剤	散布	収穫前日まで	3回以内	
M5	ダコニール1000	散布	収穫前日まで	3回以内	
-	バイオキパー水和剤	散布	発病前～発病初期	-	

・殺菌剤（参考農薬）

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	(銅水和剤) Zボルドー	散布	-	-	野菜類（キャベツを除く）
	ドイツボルドーA	散布	-	-	野菜類
7	アフェットフロアブル	散布	収穫前日まで	3回以内	
11	ストロビーフロアブル	散布	収穫前日まで	3回以内	
U6+3	パンチョTF顆粒水和剤	散布	収穫前日まで	2回以内	

・殺虫剤

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
29	ウララ DF	散布	収穫前日まで	2回以内	
5	スピノエース顆粒水和剤	散布	収穫前日まで	3回以内	ズッキーニ（花）を含む

・殺虫剤（参考農薬）

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
4	(ジノテフラン) アルバリン顆粒水溶剤	散布	収穫前日まで	2回以内	
	スタークル顆粒水溶剤				
23	モベントフロアブル	散布	収穫前日まで	3回以内	

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決めているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

病害虫名 (F : 菌類病、B : 細菌病、V : ウイルス病、O : その他の病原体)

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
うどんこ病 (F)	6月上旬～ 収穫期まで	1. ダコニール1000の1,000倍液を散布する。 [参考農薬] 1. アフェットフロアブル2,000倍液、ストロビーフロアブル3,000倍液、パンチョTF顆粒水和剤4,000倍液のいずれかを散布する。	1. 葉裏に薬液が充分付着するよう散布する。 2. 発病が蔓延してからでは防除困難なため、発病初期の防除に努める。 3. QoI剤に関する注意事項「56. 野菜類の総括注意」参照。
べと病 (F)	6月上旬～ 収穫期まで	[参考農薬] 1. Zボルドー500倍液、又はドイツボルドーAの500～1,000倍液を散布する。	
疫 病 (F)	生育期間	1. 畦間に敷きワラするかポリフィルムでマルチし、泥はねを防ぐ。 2. 排水の悪いほ場では高畦にする。	1. 排水不良のほ場で発生しやすい。 2. 降雨による泥はねにより茎葉、果実に感染する。
軟腐細菌病 (B)	7月～9月	1. Zボルドー500倍液、又はスターナ水和剤1,000倍液を散布する。 2. バイオキーパー水和剤1,000倍液を散布する。	1. バイオキーパーは生物農薬である(「56. 野菜類の総括注意」参照)。
モザイク病 (V)	生育期間	1. 施設栽培では、開口部を防虫ネット(0.8mm目合い)で覆い、媒介虫のアブラムシの侵入を防ぐ。 2. 雑草などの伝染源除去に努める。 3. 罹病株は早期に抜き取り除去する。	1. 県内で発生しているのは、CMV、WMV、ZYMVであり、各ウイルスにより果実の病徴が異なる。詳細は、農業農村支援センターに問い合わせる。 2. CMV、ZYMV感染の有無は、イムノクロマト法により簡易診断できる。
アブラムシ類 (ウイルス媒介)	生育期間	1. ウララDF2,000倍液を散布する。 [参考農薬] 1. アルバリン顆粒水溶剤、スタークル顆粒水溶剤、モベントフロアブル2,000倍液のいずれかを散布する。	1. モベントは水産動物(甲殻類)に影響があるので注意する。 2. モベントは蚕毒に注意する。 3. モベントは不稔などの薬害のおそれがあるため、水稲にかからないよう注意する。
アザミウマ類	生育期間	1. スピノエース顆粒水和剤5,000～10,000倍液を散布する。	1. スピノエースは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 2. スピノエースは花ズッキーニにも使用できる。
コナジラミ類	生育期間	[参考農薬] 1. モベントフロアブル2,000倍液を散布する。	1. モベントは水産動物(甲殻類)に影響があるので注意する。 2. モベントは蚕毒に注意する。 3. モベントは不稔などの薬害のおそれがあるため、水稲にかからないよう注意する。